



豊岡市図書館 未来プラン

平成 29 年2月

豊岡市 ・ 豊岡市教育委員会

あいさつ



豊岡市立図書館は、平成 11 年に現在地へ移転開館し、17 年が経過しました。その間、「知の蔵」としての役割を果たすべく、図書資料の収集や貸出をはじめ、子どもたちへの年齢に応じた読み聞かせ事業の開催など、幅広い市民を対象にした事業を展開してきました。

しかし近年、人口減少や本離れという時代の変化に伴い、図書館利用者数の減少が進んできました。図書館では、この現状を打開しようと、さらに多くの事業開催をするという悪循環に陥り、結果、学校現場と連携した教育機能や市民との協働が不十分な状況となっていました。

一方国内では、市民のくつろぎの場として、また、子どもへの教育に重点を置いた教室の開催など、魅力的、特徴的な図書館が話題を集めています。

改めて原点に立ち返り、本市の図書館が、学びの拠点としての役割や市民のニーズを踏まえた機能、さらには民間委託等の可能性も含めた運営体制の検討を行うこととしました。

検討にあたっては、市民参画のもと「豊岡市図書館未来プラン検討会議」を設置し、7 回に及ぶ議論を行っていただきました。市が、目指すべき姿を『図書館を学びとつながりの場として活用し、豊岡の暮らしを楽しむ人が増えている』と定め、具体的な取り組みを展開していくこととしました。

本プランの実現においては、行政としての果たすべき役割を継続しながらも、常に改善意識やサービス向上を追求する姿勢、情報発信力を有する民間のノウハウを活用するなど、柔軟な展開が求められています。市民活動組織の育成を図るとともに、市民との協働により取り組むことで、図書館への理解が進み、「知の蔵」としての機能を存分に発揮できると考えます。これから生まれ変わろうとしている図書館に、市民の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本プランの策定にあたり、熱心にご審議いただきました豊岡市図書館未来プラン検討会議の委員の皆様をはじめ、アンケート調査など貴重なご意見、ご提言をいただきました多くの市民の皆様に心から感謝申し上げます。

豊岡市長 中貝宗治

図書館未来プラン策定によせて



いま全国で、図書館の機能を、「学びの場」から「新しいコミュニティスペース」へと作り替える動きが広がっています。子どもや若者、お年寄りや障害のある方々にも居場所を作り、出来れば社会参加への出番も作ってほしいという考え方です。

しかし、もしそれだけなら、そこが図書館である必要はないかもしれません。

図書館が本当に大切にしなければならないのは、やはり「本を読む楽しみ」「本を通じて未知なる世界に触れる喜び」なのだと思います。それがあからこそ、たとえば引きこもりや不登校の子どもでも、「図書館なら行ける」と言う子が出てくるのでしよう。もしも、家庭環境や地域間格差によって、「本を読む楽しみ」に目覚めることの出来ない子どもがいるとしたら、それはとても哀しいことです。豊岡に育つすべての子どもたちに、本を読む楽しみを得る場所として図書館が機能することを願います。

読書は、世界に開かれた小さな窓です。異なる文化や価値観を持った人々にも思いを馳せる異文化理解能力を培う出発点です。「小さな世界都市・豊岡」にふさわしい図書館への再生を期待します。

豊岡市芸術文化参与 平田 オリザ

目次

第1章 未来プランの策定と基本的な考え方 ... 1

- 1-1 策定の背景 1
 - (1) 豊岡市第3次行政改革大綱
(平成26年度～平成33年度) 1
 - (2) 図書館のあり方検討の経緯 1
 - (3) 豊岡市図書館未来プラン検討会議
の設置 2
- 1-2 未来プランの概要 2
 - (1) 目的 2
 - (2) 位置づけ 2
 - (3) 取組期間 2

第2章 図書館の現状と課題 3

- 2-1 施設面 3
 - (1) 建物・機器 3
 - (2) 書架 3
 - (3) 実施事業 3
- 2-2 サービス面 4
 - (1) 人口推移、入館者数、貸出点数の
推移 4
 - (2) 年代別利用者登録数 5
- 2-3 図書館未来プラン検討会議の調査検
討 6
 - (1) 事務事業評価 6
 - (2) 市民アンケート 6

- (3) 利用者アンケート 7
- (4) 市民協働ワークショップ 7
- (5) 図書館未来シンポジウム 8
- 2-4 図書館を取り巻く社会情勢 9
 - (1) 複合機能型・長期滞在型の図書館 . 9
 - (2) 子どもの読書活動の推進
(学校図書館との連携) 9
 - (3) 活発化する市民活動との連携 9
- 2-5 現状と課題のまとめ 10

第3章 図書館の機能強化 11

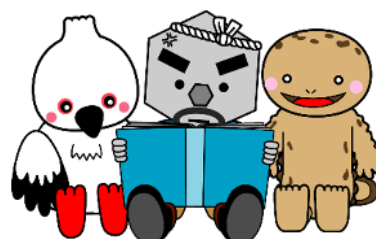
- 3-1 目指す姿 11
- 3-2 機能強化の柱と視点 12
 - (1) 柱 12
 - (2) 視点 13
- 3-3 施設機能等の見直し 15
 - (1) 施設機能の整備 15
 - (2) 施設の長寿命化 16
 - (3) 事業推進体制の見直し 16
- 3-4 管理運営計画 17
- 3-5 機能強化のまとめ 19

第4章 事業推進計画 20

- 4-1 戦略体系図 20
- 4-2 事業推進スケジュール 21

【附属資料】

- ・図書館法 (抜粋)
- ・豊岡市図書館未来プラン検討会議 設置要綱
- ・豊岡市図書館未来プラン検討会議 委員名簿
- ・豊岡市図書館未来プラン検討会議 検討スケジュール
- ・豊岡市立図書館 市民協働ワークショップ開催実績
- ・豊岡市図書館未来シンポジウム 開催要項
- ・豊岡市図書館未来シンポジウム 広報チラシ
- ・検討会議委員による現図書館の評価・課題・問題点
の整理一覧
- ・豊岡市立図書館 実施事業一覧 (平成27年度実績)
- ・豊岡市立図書館 市民アンケート調査票
- ・豊岡市立図書館 市民アンケート調査結果
- ・豊岡市立図書館未来シンポジウム 会場アンケート調査票
- ・豊岡市立図書館未来シンポジウム 会場アンケート集約結果
- ・豊岡市立図書館 利用者アンケート調査票
- ・豊岡市立図書館 利用者アンケート集約結果



第1章 未来プランの策定と基本的な考え方



1-1 策定の背景

(1) 豊岡市第3次行政改革大綱(平成 26 年度～平成 33 年度)

豊岡市では、平成 26 年 3 月に第 3 次豊岡市行政改革大綱を策定し、財政危機への引き続きの対応と成果重視への転換に取り組むこととした。中でも、行政改革実施計画において、図書館に関しては、市内各公共施設のあり方として「民間委託の推進を検討する」施設の一つに掲げている。

《第 3 次行政改革で中心となる 4 つの方針》

- ①「職員の意識改革」…政策立案能力と実行能力の向上
- ②「新しい公共による協働の推進」…自助・共助・公助による補完性の原則
- ③「選択と集中によるサービス展開」…行政資源の有効活用の推進
- ④「効率的・効果的な行財政運営」…持続可能な行財政構造の構築

第 3 次行政改革実施計画 (抜粋)

『図書館の持つ機能を損なうことが無いよう、最善の手法を調査・研究し、部分委託の可能性、或いは直営の継続を含めて検討を行う。』

(2) 図書館のあり方検討の経緯

行政改革大綱及び実施計画に基づく、図書館の民間委託を検討するにあたり、庁内検討委員会「新しい図書館機能研究会」を設置し、図書館勉強会や研究会での協議を重ねた。

また、外部アドバイザーにも意見を求める中で、行革の『民間委託か直営か』の視点は一旦保留し、原点にかえて図書館の役割と機能を再考し、10 年後の図書館像を描くことが重要であると判断した。

(3) 豊岡市図書館未来プラン検討会議の設置

行政主導でなく、市民参画のもとで10年後の図書館像を検討するため、「豊岡市図書館未来プラン検討会議」を平成27年11月19日に設置した。

同検討会議は、図書館が知の蔵としての機能を持ち、かつ、時代の変化に対応した新たな機能を持ち合わせた図書館のあり方を描く、『豊岡市図書館未来プラン』を策定することを設置目的とした。

1-2 未来プランの概要

(1) 目的

図書館の本来の機能のほか、図書館の果たすべき役割を再認識した上で、時代の変化に対応した新しい機能を持ちあわせた図書館像を描くための具体的な計画を定める。

図書館の定義 (図書館法第2条)

図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する施設。

(2) 位置づけ

図書館法、豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則に基づき、本来の図書館の機能と担うべき役割、図書館の目指す姿を取り決めるものとする。

(3) 取組期間

平成29(2017)年度 ~ 平成33(2021)年度

当初計画の進捗管理と、時代の流れに的確に対応する必要があるため、毎年プランの進捗状況を把握し、5年後に未来プランの内容修正や改定も含めて検討するものとする。

第2章 図書館の現状と課題



2-1 施設面

(1) 建物・機器

- 本館は平成11年に移転開館して18年が経過しており、空調・照明機器の老朽化が進行している。
- ビデオやDVD視聴機器も各種設備・部品の劣化が目立つようになり、更新が望まれる。
- 旧陣屋跡に建築され、景観に配慮しつつ整備されたこともあり、駐車スペース不足が常態化しており、長年の大きな課題となっている。

(2) 書架

- 分館の書架は、ほぼ飽和状態で、このままでは蔵書の充実に支障をきたすため、本館の開架スペースとの調整が必要である。
- 本館についても、閉架の収容能力が近い将来不足にすることが予想される。現書架の収納整理及び地下書庫の整理などの対応が必要である。

(3) 実施事業

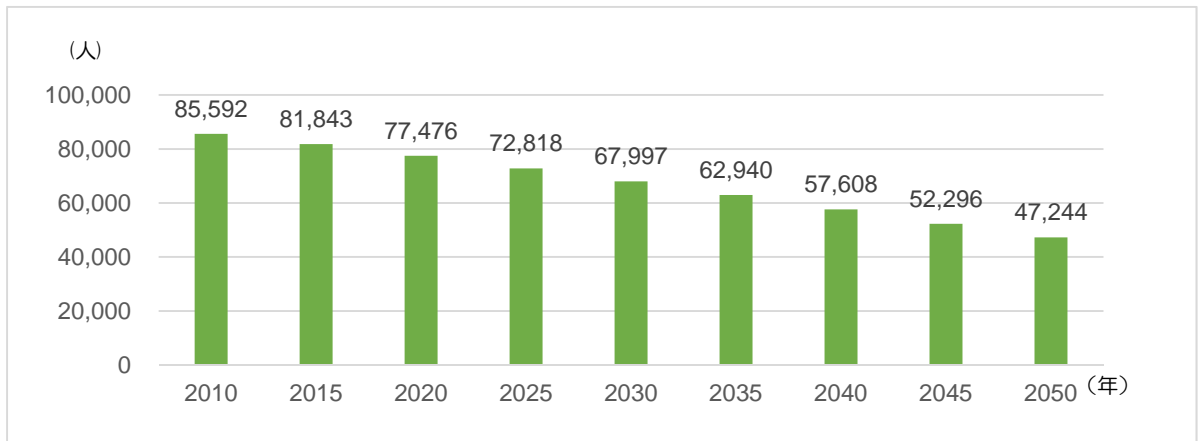
- おはなし会等の読み聞かせ事業を、館内事業として年齢を分けて行っている他、学校や施設に出向いて実施している。
- 事業実施にはボランティアの協力が不可欠であり、各ボランティアのスキルアップを行っている。
- ボランティアの高齢化及び専門性が向上したことにより、新規加入者が少なく、後継者の育成が急務である。

2-2 サービス面

(1) 人口推移、入館者数、貸出点数の推移

ア 豊岡市の人口推移

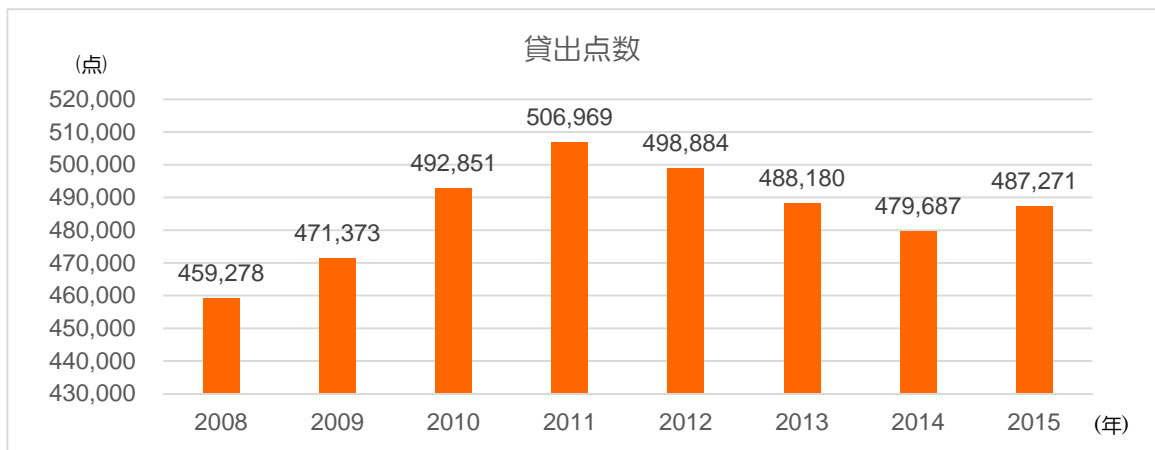
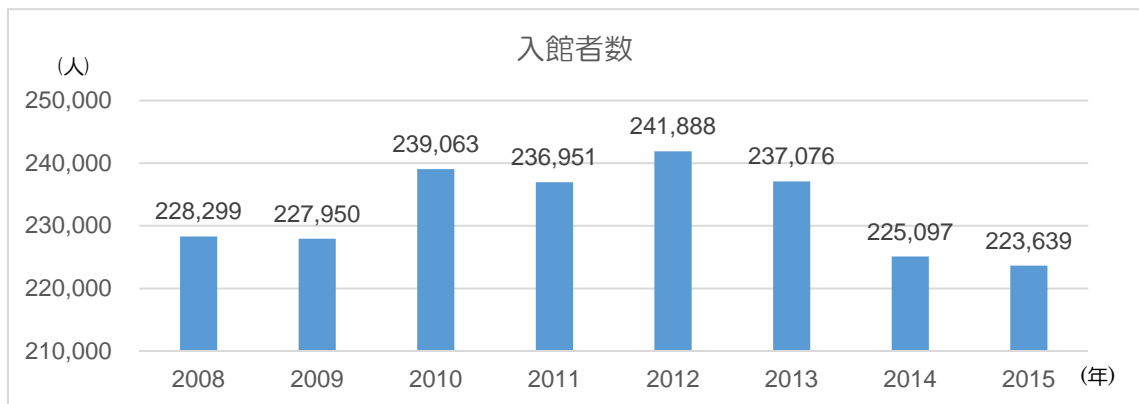
豊岡市の人口は減少を続けており、現在は約8万人を維持しているが、40年後には5万人を下まわると推計されている。



※2020年以降は推計値（「豊岡市人口ビジョン」より）

イ 入館者数・貸出点数の推移

近年では入館者数、貸出点数ともに減少する傾向にあるが、平成27（2015）年度では貸出点数が増加する傾向にあり、一人当たりの貸出点数が増加していることが考えられる。



（入館者数、貸出点数ともに「豊岡市27年度事務報告書」より）

(2) 年代別利用者登録数

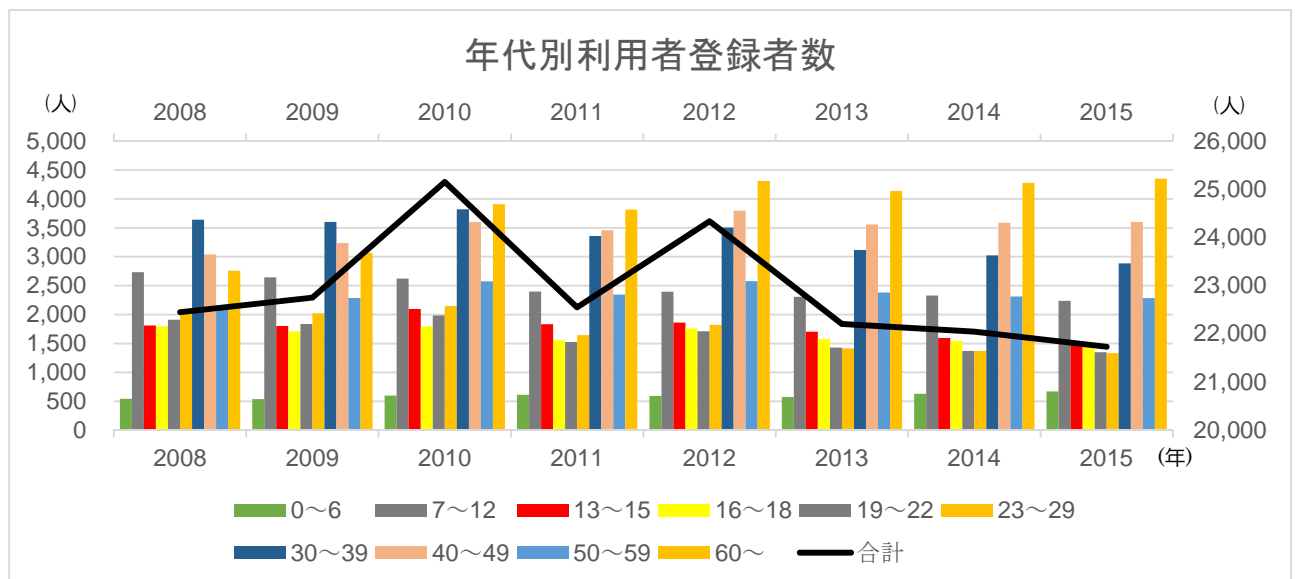
少子高齢化が進行する中で、当館でも中高年が占める割合が多く、20代以下の伸び悩みが目立つ。

2008年と比較しても、40代以上の登録者数は増加したが、若年層の数は減少しており、特に20代・30代の大幅な減少が目立つ。

0～6歳についてはブックスタート事業の浸透や乳幼児向け事業の充実により増加傾向にある。

(人)

年 歳	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
0～6	545	540	599	613	595	575	631	671
7～12	2,733	2,644	2,621	2,399	2,396	2,307	2,328	2,238
13～15	1,811	1,804	2,096	1,833	1,860	1,704	1,596	1,496
16～18	1,797	1,713	1,795	1,558	1,762	1,578	1,545	1,523
19～22	1,911	1,837	1,985	1,526	1,712	1,429	1,371	1,350
23～29	2,057	2,022	2,150	1,646	1,824	1,417	1,372	1,333
30～39	3,640	3,601	3,819	3,357	3,506	3,117	3,022	2,886
40～49	3,041	3,235	3,602	3,457	3,794	3,558	3,588	3,601
50～59	2,156	2,287	2,575	2,345	2,577	2,382	2,313	2,286
60～	2,759	3,068	3,909	3,814	4,309	4,137	4,277	4,349
合計	22,450	22,751	25,151	22,548	24,335	22,204	22,043	21,733



(「豊岡市平成 27 年度事務報告書」より)

2-3 図書館未来プラン検討会議の調査検討

(1) 事務事業評価

図書館で行っている事業について検証するため、未来プラン検討会議委員により継続すべきもの、内容検討すべきもの、廃止すべきものの3つの区分で事業評価を行った。実施している多くの事業に対して、「継続すべき」という評価を得た。複数の委員から「内容検討すべき」という評価があった事業は、以下のとおり。

ア 広報（図書館だより等）

- ・広範囲に配布できるような方法の検討
- ・見やすい紙面になるような工夫が必要
- ・図書館の機能（例：ホームページからの予約できること等）に関する情報が少ない。
- ・図書館主催事業の認知度が低い。

イ 児童サービス（おはなし会等）

- ・他の機関と連携し、図書館が主体でやるべき事業か整理が必要
- ・現公民館と共催している事業は、新しいコミュニティ組織との調整が必要

ウ その他事業

- ・映画会は、映画館が少ないので実施する意義がある。より多くの方に来ていただくよう開催場所・時間を再検討すること。
- ・ぬいぐるみお泊り会は、必要性は疑問だが、面白い取組みである。
- ・全ての事業について必要性をはっきりさせ、他の主催事業とのコラボレーションなどを検討すること。

(2) 市民アンケート

市民のニーズを把握するため、市民 2,000 人を無作為抽出してアンケートを行った。調査結果は以下のとおり。

- ・過去 1 年間に利用したことがあるのは全体の 35.7%。男性に比べ女性の利用率が高く、30~40 代の利用率が高い。また、20~40 代で子どものいる層は 57.7%と利用率が高い。
- ・読みたい本の入手経路としては「購入する」が大部分を占める。若年層では「インターネットで購入する」の割合が高い。
- ・利用者の満足度は「職員の対応(88.1%)」を筆頭にいずれの項目も 7 割を上回り良好である。

- これから優先的に行った方がよいと思うサービスでは「図書館外で貸出・返却できる場所」、「資料の充実」、「高齢者サービス」への要望が高い。
- 自由回答では、「駐車場の拡充」、「貸出・返却の利便性向上」に関する意見が散見した。

(3) 利用者アンケート

図書館利用者の利用傾向や要望を把握するため、図書館利用者を対象にアンケートを行った。図書館の利用方法が便利になることを望む意見が多かった。

主な意見は次のとおり。

- 図書資料（新刊、ビジネス書、他各分野）の充実
- 読書手帳の導入
- 図書館ホームページの利便性（資料検索、予約方法）の向上
- 館外にサービスポイントを設置
- 開館時間・休館日の変更の検討
- 職員対応の向上
- 施設の整備（本館駐車場の整備、静かな環境、飲食スペース、Wi-Fi 環境の整備など）

(4) 市民協働ワークショップ

様々な立場の市民 20 名と共に本館・各分館の問題を共有し、その解決に向けた手段を考える機会として、本館・分館別にワークショップをそれぞれ各3回開催した。

ア 本館ワークショップで出された主な意見

- 福井県鯖江市JK課プロジェクト^(※)のように、ボランティア活動に中高生にも加わってもらうなかで、高校生の意見を反映すること。
- ビブリオバトルのような発表する場としての行事を開催すること。
- 館内の Wi-Fi 環境整備
- 本館駐車場の整備

※ 福井県鯖江市JK課プロジェクト：JK（女子高生）が中心となった市民協働推進プロジェクトのこと。

イ 分館ワークショップで出された主な意見

- 分館の本を庁舎の1階や病院フロアなど、目につきやすい所に置くこと。
- 地域のイベントや放課後児童クラブなど、人が集まる場所へ出かけて貸出返却を行うこと。
- 大人向けの朗読会や読書会を実施し、地域の人・団体と交流すること。
- 庁舎に来たついでに気軽に立ち寄り、のんびり過ごせる場所としての整備

ウ 共通して出された意見

- ・来館が困難な利用者（高齢者等）に対して、本の宅配のサービスを行うこと。
- ・本館内に飲食可能な談話スペースの確保

(5) 図書館未来シンポジウム

市民にアンケートの結果や検討会議の状況について報告するとともに、図書館未来プランの概要を報告し、図書館の未来の姿と役割について考える機会として開催。



ア パネルディスカッションでの意見

文化芸術の専門家・図書館利用者・高校生・未来プラン検討会議委員の4名から、以下の意見が出された。

- ・社会的弱者に来てもらい、居場所と出番を作ることで社会とつながる場にあること。
- ・コレクションの充実や職員資質の向上によるレファレンス[※]機能の強化が大切
- ・学生が行きたいと思う図書館を（参考書の充実・美術館の作品展示・観葉植物で明るい雰囲気づくり）
- ・教育行政の中で図書館の位置づけをしっかり決めること。
- ・アクティブラーニングの視点から、グループワークができる場所であること。
- ・放課後、図書館に行く高校生は7%（ツイッターでのアンケート調査結果）
- ・利用者が何を求めているかをしっかり把握すること。
- ・図書館職員に地域コーディネーターの役割が求められている。
- ・未利用者の掘り起こしが必要
- ・子どもの読書離れを防ぐ
- ・資料の充実

※ レファレンス：

利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務のこと。

イ 会場アンケートでの意見

■ 出会いの場

- ・開かれた図書館となること、来館することに期待を持たせる工夫が必要
- ・静かな場所から共に学ぶ場、出会いの場となること。
- ・使いたいけど使えない人が使えるよう、弱者への対応が必要
- ・まずはBGM、コミュニティスペースの工夫を試みること。

■ 広報・情報提供

- ・情報発信が大切、できることを掲示する。
- ・学校や市民に、図書館が多様に利用できることを学ぶ機会が必要

■連携企画

- ・芸術・文化施設等との連携企画に期待する。
- ・豊岡市の施策や学校教育との連携が重要である。
- ・縦割り行政を打破して、図書館がコミュニティを変えてほしい。

■ユーザー側が何を求めているか把握する必要がある。

■全域へのサービス

- ・地域への移動図書館車の運行
- ・遠方で来館しにくい地域では、学校図書館の開放できないか。また、専門職員の配置、学校図書館資料の充実も必要である。

2-4 図書館を取り巻く社会情勢

(1) 複合機能型・長期滞在型の図書館

くつろぎの場としての 図書館が増えている

- ・民間委託された図書館や複合施設の中にある図書館では、休館日の削減や開館時間が延長されている。
- ・カフェの併設、Wi-Fi環境の整備など、読書以外の目的で長時間くつろげる場所となっている。

(2) 子どもの読書活動の推進(学校図書館との連携)

図書館以外の機関と 連携する必要がある

- ・子どもの学びを支える環境整備のなかで、学校図書館への支援が重要視されている。
- ・学校での朝読、家庭での家読（うちどく）の重要度も注目されてきている。

※家読：家族みんなで読書することで、家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動

(3) 活発化する市民活動との連携

図書館を支える 自主的団体の増加

- ・図書館と市民との協働・パートナーとして図書館と関わる市民が望まれている。
- ・自主的に活動し、他の市民・団体等と交流することで、市民の自己実現の場としての役割が期待されている。

《市民と協働している図書館の例》

館名	団体名
鯖江市図書館	さばえ図書館友の会
伊丹市立図書館	交流フロア運営会議
三木市立図書館	図書館ともの会
篠山市立図書館	ささやま図書館友の会
福崎町立図書館	図書館応援隊
伊万里市民図書館	図書館フレンズいまり

2-5 現状と課題のまとめ

図書館

- ・建物自体は強固
- ・収蔵スペースが将来不足
- ・ボランティアの高齢化、後継者不足
- ・利用者、貸出点数ともに減少している
- ・事業の整理と焦点化

検討で見えた課題

- ・利用した人が40%にとどまる（過去1年間の利用）
- ・事業の認知度が低い
- ・駐車場が不足（本館）
- ・サービスの充実を希望
- ・居心地のよい場所を希望

社会情勢

- ・コーヒー等が飲める、くつろぎの場が増えている
- ・学校支援の充実
- ・市民活動組織の設立（市民とともに協働する）



第3章 図書館の機能強化

3-1 目指す姿

**図書館を学びとつながりの場として活用し、
豊岡の暮らしを楽しむ人が増えている**

基本的な考え方

- 読書を通じて想像力あふれる感性を育み、“学び続けること”を支援する。
- 周りの目を気にすることのない居場所となり、社会とのつながりと出番づくりを支援する。
- 読書の根幹となる図書資料等の収集を積極的に行う。

機能強化の柱

柱-①

市民が図書館を身近で利用価値のある場所だと思ふことが必要

柱-②

誰もが長く居たいと思う居心地のよい場所になることが必要

機能強化の視点

視点①

学びの支援

図書資料を提供することで学び、気付きをサポートする。

- ・レファレンスサービスの充実
- ・学校図書館支援

視点②

居場所と出番づくり

だれもが居ることができ場所を整備し、活躍のきっかけを提供する。

- ・相談窓口の設置
- ・出番づくりの創出

視点③

協働と自己実現の支援

協働することで市民のための図書館であることを意識する。

- ・自らの施設であるとの意識付け
- ・民間との協働体制の強化

視点④

情報拠点の提供

あらゆる分野の資料を収集し、情報のデータベースとなる。

- ・新たなサービスステーションの整備
- ・情報を得る機会の増加

3-2 機能強化の柱と視点

(1) 柱

柱－① 市民が図書館を身近で利用価値のある場所だと思ふことが必要。

- ア 必要とする資料が提供され、便利だと感じれば人は来る。
- ・ 目的に応えるための専門知識の向上
 - ・ 幅広い視野から資料収集を行う。
- イ 何気なく手にとった本から新しい発見へと導く。
- ・ 図書資料等に触れるきっかけづくり
 - ・ 館外にもミニコーナーを設置し、気軽に書籍を手にとれるようにする。
- ウ 市民の「知りたい」に的確に応える。
- ・ 市内の専門家へ橋渡しする事業の展開
 - ・ 多くの資料から的確に資料を提供
- エ 学校図書館と連携し図書資料を整備し、子どもの成長をサポートする。
- ・ 学校図書館を支援するため、教育委員会や学校と連携し、積極的な情報提供に努める。
 - ・ 学校図書館とネットワーク化を図り、市全体での図書資料の充実を図る。
- オ 図書館事業を広く市民が知っている。
- ・ ホームページ、フェイスブックで情報発信
 - ・ 口コミによる情報発信

柱－② 誰もが長く居たいと思う居心地のよい場所となることが必要である。

- ア 社会とつながり、包み込めれば、人は集まる。
- ・ 公共の場として、様々な人々の居場所となる。
 - ・ 社会とのつながりをサポートする窓口となる。
- イ 緩やかにさまざまな情報を提供し、活躍を促す。
- ・ 就業支援などの情報の提供
 - ・ 市民相互の興味をつなぐことで仲間意識を醸成する。
- ウ 公共施設としての最低限のルールを守る場所
- ・ 何をしても構わない場所ではない公共の場であることをお互いが認め合う。
 - ・ 子どもの情操教育の場でもある。

(2) 視点

視点－① 読書することによる「学び」の支援

図書資料を提供することで学び・気づきをサポートする。

- レファレンスサービスを充実させるとともに、制度の周知を図る。
- 学校図書館の支援を行う。(探求型学習の支援)
- 市民の知識人ネットワークを構築(学びのネットワーク化)する。
- 貸出資料の代理受領の検討

・レファレンスサービスの周知不足
 ・学校支援
 (団体貸出、講師派遣、読み聞かせ事業)
 ・利用者の固定化

・レファレンスサービス制度の周知と具体的事例の紹介
 ・学校支援
 (学校図書館の資料補完、整理)
 ・未利用者への図書館利用者カードの交付促進

視点－② 居場所と出番づくり

誰もが長く居ることができる居心地の良い場所として整備し、社会とつながる場を提供する。

- 社会包摂の考え方で、様々な人の居場所となる。
- 相談窓口の設置による、出番のきっかけをつくる。
- 家庭・学校・職場に次ぐ第3の場所となることが望ましい。
- 一定時間を過ごすことで、情報知識の検索、交流、くつろぎの場となる。

・学習席の利用提供だけの利用となっている。
 ・館内で飲食できる場所がない。
 ・就業支援などの情報提供は、ミニコーナーで対応している。

・学習席にデスクマットを配置し情報を緩やかに提供することで出番づくりを創出する。
 ・飲食可能な談話スペースを整備する。
 ・外部機関と連携し、専門的、定期的な相談会を開催する。
 ・やさしい日本語による館内表記

視点－③ 協働して創作し、市民の可能性を育む。

協働することで市民のための図書館であることを意識する。

- 地域団体とつながり、市民の発表の場を企画する。
- 市民団体の活動拠点として、図書館を開放する。
- 市民にとって身近な施設と感じてもらおうよう協働事業を開催する。
- 図書館の仕組みをわかりやすく知らせる。
- 一方的なサービスの受け手にとどまらず、ボランティアを能動的・主体的存在として認め、連携していく。
- 民間のメリットを活かしながら、民間及び新しい市民活動組織とのパートナーシップを図る。

・ 図書の利用だけの施設である。
・ 図書館事業への参加の固定化
・ ボランティア組織は図書館の下請け的な感覚

・ 初めての参加者限定事業の実施
・ 能動的に行動する新しい市民組織の体制づくりを進める。
（自主自立組織）
・ 民間、新しい市民活動組織との連携を図る。

視点－④ 資料収集の充実

あらゆる分野の資料を収集し、情報のデータベースとなる。

- ホームページを改編し、知識人ネットワークのページを新設する。
- 豊岡市の歴史を保存する。
- 歴史博物館と連携を進める。
- 市街地内に図書館サービスステーションを整備し、身近に情報に触れる場所を増やす。
- 市民の利用を促進するため、豊岡駅前アイティとの併設が有効である。
- 地域の課題問題の解決を支援するための地域、コミュニティ組織と協働し、ともに成長することを旨とする。

・ 行政資料の収集不足
・ 歴史資料の整理不足
・ 図書館に来なければサービスを受けられない。

・ 行政資料の寄贈を積極的に呼びかける。
・ 歴史博物館と資料整理の明確化
・ 市内サービスステーションの新設整備
・ 配送サービス充実の検討
・ 地域の課題や問題の解決

3-3 施設機能等の見直し

目指す姿を達成するため、次の点に取り組む必要がある。

(1) 施設機能の整備

ア 談話スペースを整備

- ・居場所と出番づくりのきっかけとなるスペースを整備する。
- ・社会とつながるための市民支援窓口となる。
- ・館内で飲食可能スペースを設置する。市民がつながる場所として活用してもらう。

イ 駐車場の整備

- ・市街地内の施設である現状では新たな駐車場用地の確保は困難である。
- ・市街地へのサービスステーションを設置し、本館機能を分散させる。
- ・障害者差別解消法の施行に伴い、玄関前に身障者用駐車場を整備する。

ウ 市街地への図書館サービスステーションの新設

- ・図書館本館・分館以外で図書サービスが受けられる場所を整備し、利便性の向上を図る。
- ・特に豊岡駅前の複合施設に整備することは、利便性が向上するために有効である。
- ・あわせて、配送体制についても検討が必要である。

エ 行政サービスステーションの整備

- ・市役所内に、図書館サービスステーションを設置し、市民の利用に供するとともに、地方行政、議会等の支援と、資料の記録、保存する機能を付加し整備する。

オ 学校図書館とのネットワーク化

- ・学びを支援するため、学校図書館の図書館情報システムとのネットワーク化を目指す。また、サポートとして図書館職員配置を学校現場の意見を聞き検討する。
- ・配送体制も分館配送体制と調整して検討する。

カ やさしい日本語表記による館内表示の変更

- ・観光客、定住する外国人にも理解できる館内サイン表示を検討する。

ク Wi-Fi 環境の整備

- ・情報拠点として、Wi-Fi 環境整備を市全体の計画と調整し、検討する。

(2) 施設の長寿命化

ア 視聴覚機器（AVコーナー、視聴覚・講演室）

- ・現在の機器の老朽化に伴い機器更新し、利用者の利便性向上を図る。
- ・現在は貸出していない視聴覚資料（DVD等）の貸出を検討する。

イ 空調機器

- ・築後18年が経過し、機器本体のサポート費用の増加、部品供給の停止などの問題があり、また、冷暖房の効率も悪くなっているため更新する。

ウ 照明設備

- ・適切な照度を確保するため、館内照明器具をLEDに更新し、居場所として居心地の良い場の整備を行う。

エ 録音室

- ・児童コーナーに隣接し、朗読以外の外部の音が録音されてしまうため、防音工事を行う。

(3) 事業推進体制の見直し

ア 児童ボランティアの養成

- ・ボランティアの高齢化と後継者不足を解消するため、養成講座を開催する。
- ・基本的な知識を習得した上で、学校への派遣もする。

イ 図書館サポーター組織の設立準備

- ・図書館に寄り添う、事業を共催できるなどの自主自立の精神に基づく、相互が高め合う団体の設立を目指す。

ウ サピエ^(※)の利用

- ・全国のネットワークから多様な音訳・点訳データを取得し、対象者に提供する。
 - ・現在、ボランティアが取り組んでいる朗読・点訳資料を全国に発信することができ、ボランティアのやりがいにつなげる。
- ※ サピエ：視覚障害等のある利用者に対して音訳・点訳データを提供するネットワークのこと。

エ 新しいコミュニティとの連携

- ・地域課題の解決を支援するため、地域のコミュニティーセンターからの要望に応じ、情報提供を行う。
- ・地域と市民を支える交流拠点として、図書館分館を位置づける。

オ 配送・資料代理受領の検討

- ・来館困難者への宅配サービス、資料の代理受領を検討する。

3-4 管理運営計画

ア 図書館の運営方式の検討

<現状>

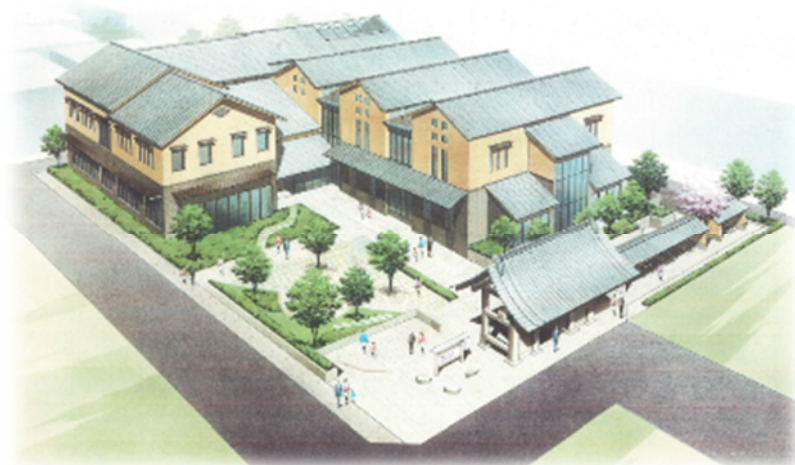
- 現在の図書館は、年齢に応じた読み聞かせ事業の開催や視覚障害者等に対する事業を開催するなど、幅広い市民を対象に事業を展開している。
- しかし、事業開催にあたり、広報等の情報発信等が充分できておらず、実施事業が周知できていないのが実態である。
- また、利用者減に対応するための多種多様な行事開催や、とりわけ、本の貸し借りだけに注力することに追われ、業務改善への意識が低くなっている。
- 図書館が本来果たすべき学校現場と連携した教育機能や、市民との協働がおろそかになっている。

<民間委託（指定管理）>

- 図書館が苦手としている部分を補い、図書館本来の機能を発揮するため、他の図書館で先行して導入されている管理運営を民間委託（指定管理）する方法も有効な手段として検討した。
- 民間委託では、管理費用の低減や業務改善による効率化、情報発信力を期待できるなどのメリットがあり、県内でも導入されている事例がある。
- この事例を見ると、民間委託する場合の課題として、市に専門的な知識を有する職員がいなくなり、蓄積してきたノウハウ等が失われること、委託や指定管理の期間を区切ることで短期的な経営視点に陥る可能性もあり、長期にわたって安定的な図書館機能を十分発揮できなくなるという懸念もある。

<パートナーシップ>

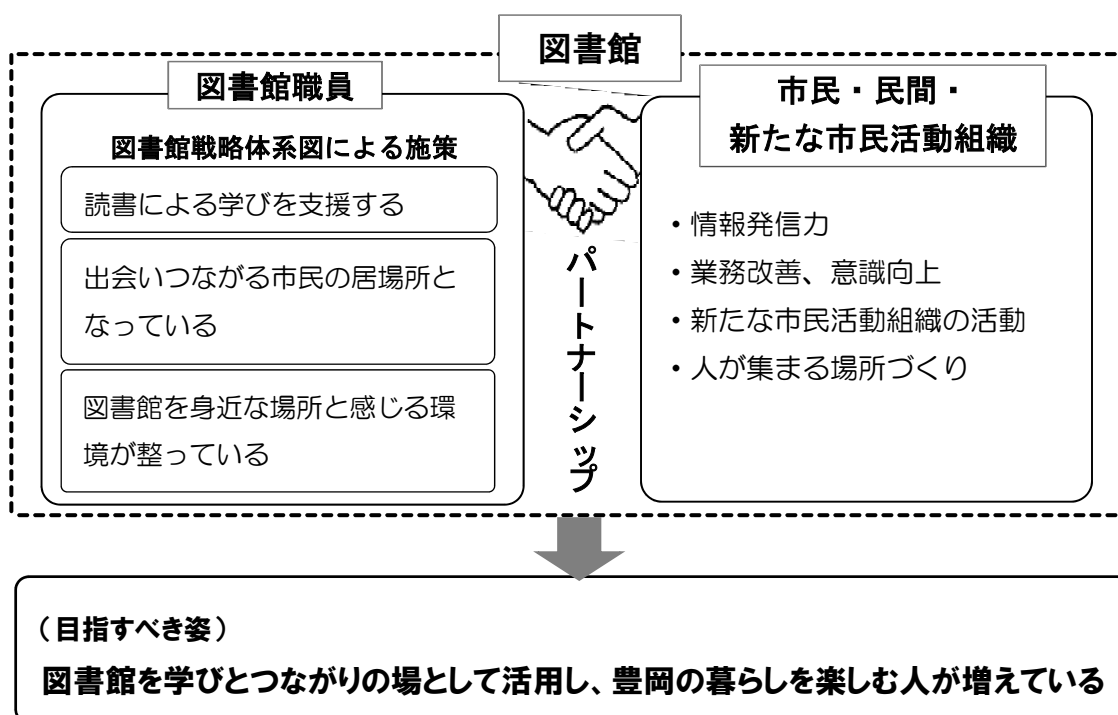
- 官か民かではなく、現状で不十分な部分を民間の視点を取り入れ、専門的職員である司書を中心に継続した協働体制を拡充していくことは、目指すべき姿の実現に有益であると考えられる。



現段階では、課題を抱えながらも「知の蔵」としての基本的な機能を発揮してきた現在の直営方式を基本としながらも、行政と民間のメリット（情報発信、業務改善等）を活かしつつ、民間及び新しい市民活動組織との協働を進め、図書館の目指すべき姿の実現を目指すことが適当であると考えられる。

今後も社会の変化に適応していくために、引き続き管理運営体制について、調査・研究を続けていく必要がある。

《管理運営計画のイメージ》



イ 組織の検討

- ・読み聞かせ事業の実施や選書などの知識は、長年の経験とノウハウが不可欠であることから継続的な職員雇用が求められる。
- ・市民団体等との連絡調整や事業実施のためのスタッフについても、上記と同様である。
- ・司書は前述のノウハウを習得していることから、司書資格所有者の継続的な配置が不可欠である。
- ・多様化する社会情勢を的確に捉え、専門的に管理運営するため、事務系の職員配置も継続的に必要である。

ウ 施設利用

- ・開館時間、休館日は「利用したいときに開館している」を目指す。
- ・火曜日と祝日が休館日となっているが、他の施設（子育てセンター、公民館等）も同様であり、調整した上で変更を検討する。
- ・子育てセンター、博物館等子どもの居場所となる施設をはじめ、関連する施設と休館日が重複しないことが望ましい。
- ・休館日を本館・分館又は分館ごとに分散させることは、利用者の混乱を招く可能性があるため、避けることが望ましい。
- ・開館時間についても、利用の実態からの判断が必要である。

3-5 機能強化のまとめ

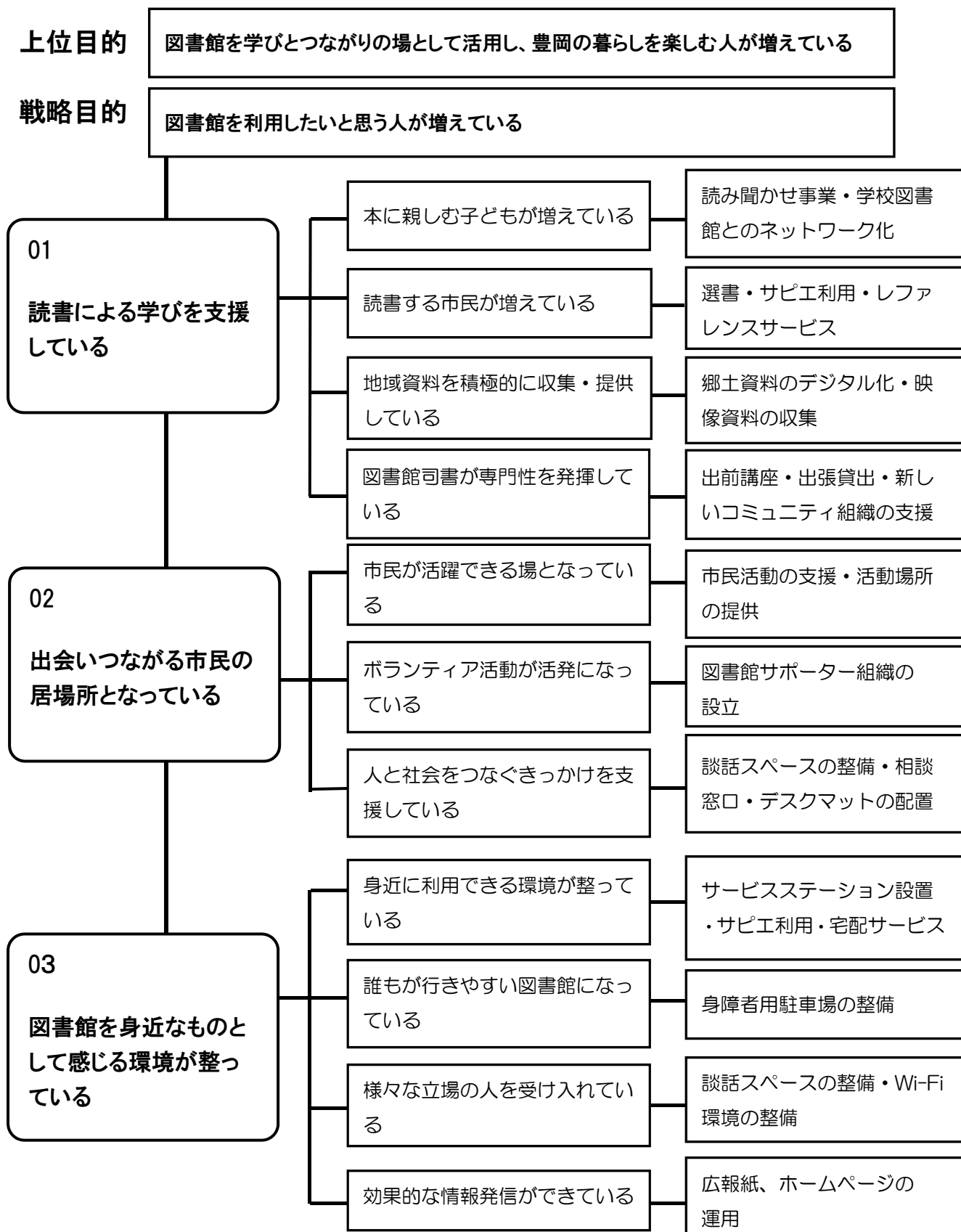
市民が図書館の魅力を再認識し、学びと居場所・出番づくりの場として、居心地のよい施設へ生まれ変わる。

- 図書館が必要とされ入館者が増えるためには、市民が図書館の魅力を知り、利用価値のある施設であると認識されている。
- 生涯の学びに関わっていけるよう図書館がサポートすることで、豊岡での暮らしを楽しむ人を増やす。
- 社会包摂の考え方にに基づき、居場所と社会とつながる場所として、様々な人を包み込む。
- 市民が図書館できっかけを見つけ、社会や人とのつながりをより強く、太くしていけるようサポートする。
- 様々な施策を展開することで図書館の機能強化を進め、目指すべき姿の実現を目指す。
- 管理運営は、「直営」としながらも、民間や市民活動組織との協働体制を確立し、拡充していくことで目指すべき姿の実現に努める。



第4章 事業推進計画

4-1 戦略体系図



4-2 事業推進スケジュール

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度以降
居場所と出番づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■ 談話スペースの整備 ■ デスクマットの配置 ■ 修繕工事 (館内照明器具のLED化・空調機器更新) 					
	出番づくりとつながる場事業の実施（市民支援窓口の設置・市民団体の活動拠点）					
学びの支援	サピエサービス（視覚障害者用図書等整備）利用					
	児童ボランティア養成講座					
	図書資料の充実（計画的な図書資料の購入）					
協働と自己実現の支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 図書館サポーター組織の設立準備 					
	図書館まつりの開催					
	談話スペースの活用					
情報拠点の提供	市街地へのサービスステーションの設置					
	行政サービスステーションの設置					
	新しいコミュニティとの連携					
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身障者用駐車場整備 					
	休館日・開館時間の検討 司書職員の計画的な採用・職員のスキル向上のための研修					

豊岡市図書館未来プラン

平成 29 年2月

豊岡市・豊岡市教育委員会

問い合わせ先 : 〒668-0042 兵庫県豊岡市京町 5-28
豊岡市地域コミュニティ振興部生涯学習課図書館
TEL 0796-23-6151 FAX0796-24-1819
URL <http://lib.city.toyooka.lg.jp>
E-mail toyolib@city.toyooka.lg.jp